

Shared Reading

□所要時間	60～90 分程度
□主なスキル	リーディング ディスカッションを英語で行う場合は、スピーキング、リスニング ディスカッション後に、英語でリアクション・ペーパー等を書かせる場合は、ライティング グループで話し合う対話力、質問力
□形式	4～5 人グループでのグループ・ディスカッション
□概要とねらい	
Shared Reading は、4～5 名のグループごとに 1 冊本を選び、それを各自読んできた上で、教室内で読後感を語り合うという活動です。英語多読に限らず、読書とは「独書」、つまり 1 人で本を読む活動であると捉えられがちですが、1 冊の本を複数名で読み読後感を共有することで、読書の幅が広がり、学習者の読書への興味をかき立てる効果が確認されています。本研究グループでは、多読授業にグループ学習を積極的に取り入れていますが、Shared Reading はその代表的なアクティビティのひとつです。 学習者は、教員の予想以上に、「1 冊の本に対する解釈はひとつ」と思い込んでいる節があります。特に、友人たちと意見が違ふことを怖れる傾向の強い最近の中高生、大学生は、自分の好きな音楽やドラマ、映画、本について、友人たちと語り合う経験に乏しいようです。ここに、Shared Reading をアクティビティとして導入する意義が生まれます。1 冊の本を読んで感じたこと、注目したこと、疑問に思ったことなどを他者と話し合ってみると、たった 4、5 人でもそれぞれ全く違う読み方をしていることに気づかされます。これは多様性への気づきと言ってもよいでしょう。 つまり、Shared Reading の第 1 の狙いは、読書を通して読みの多様性、読者の反応の多様性を知ることにあります。もちろん、ディスカッションとなると、サラッと表面だけ読んで済ませるわけにいかないのが、選んだ本を丁寧にしっかり読むための動機づけにもなります。事前ワークシートの中に、ディスカッションでどのような質問をするか事前に考えさせる課題を出しておけば、質問力をつける練習にもなります。実際、本の理解を深めるような質問が出ると、グループ内のメンバーの顔が真剣に生き生きとします。	
□事前準備（必要な教材、器具など）	
【教材について】 多読用図書、英語絵本、短編小説など。1 冊の本を複数名で読みディスカッションするので、多様な解釈が生まれるような本を選ぶとよいでしょう。例えば、<i>Curious George</i> シリーズのように、読んで楽しい本でも「ジョージ、かわいい」「おもしろかった」といった一面的な感想しか生まれない本を選ぶと、ディスカッションが盛り上がらないので注	

意が必要です。お薦め図書については、「アクティビティに適した図書の紹介」欄をご参照ください。

【事前準備について】

Shared Reading を実施する 2 週間前にはグループを決め、それぞれのグループで読む本を選ばせ（あるいは教員が本を指示し）、予読させておきましょう。必要に応じてワークシートを用意してもよいでしょう。ディスカッションで話し合いたいトピックや質問をワークシートに書き出させておくと、ディスカッションがスムーズに進みます。

☐手順

使用言語は、学生の英語レベルに合わせて日本語でも英語でもよい。

1. 4～5 人グループを作り、読む本を選ぶ（本の選び方については下記「アクティビティに適した図書の紹介」欄参照）。
2. ディスカッション当日までに各自授業外で読んでおく。このとき、ワークシートに記入させるとよい。
3. ディスカッション当日は、グループ単位で座りディスカッション開始。時間は参加者のやる気次第だが、20～30 分程度自由に議論させる。
4. うまく議論が始められない場合は、まず率直な印象、感想から話し始めるよう促す。用意してきた質問をお互いにするのもよい。
5. 「ただ話し合え」というと目的を見失う場合があるので、話し合った結果を何らかの形でまとめるよう指導するとよい。例えば、選んだ本の短い書評をグループで書く、選んだ本を紹介するプレゼンテーションをおこなうなどの活動が考えられる。
6. 教師からの講評、解説、まとめをおこなう。

【学生の反応】

- 自分では思いつかない解釈もあって面白かった。
- 自分の解釈に自信がなかったけど、私の解釈に対してグループの人が解釈の根拠の一つとなるような発言をしてくれたのがとても印象的だった。Shared Reading によってより理解が深まったように感じた。
- 責任感を持ってやる必要がある。
- 自分だけでは気づけない視点があるのだと一番感じた。正直、この活動が一番面白かった。
- 人の意見を聞いて、色々な読み方があるのだと思った。
- 一番ためになった。
- 有益だったが、話を進めるごとに新たな発見や意見が出て来るので、深い情報に潜っ

ていくにも、出た意見をまとめるにも時間が足りなかった。

【応用・解説】

➤ 指導ポイント

先にも述べましたが、ただディスカッションして終わりにするのではなく、話し合った内容を何らかの形でまとめることが、学習効果を高めます。グループごとに本の書評を書く（ライティング活動）、ディスカッションの内容をプレゼンテーションする（スピーキング活動）などの事後活動が考えられます。

ワークシートに以下のような設問を用意しておくといよいでしょう。

- Questions you want to ask (+ your own answers)
- The passage which impressed you most (+ reason why you chose it)
- Background information of the book
- Your evaluation of the book before the discussion
- Your evaluation of the book after the discussion

➤ 授業活用例

具体的な活用例については、下記文献をご参照ください。

➤ このアクティビティに適した図書の紹介

Shared Reading のための図書の選定方法を紹介します。

1. 学生が本を選ぶ場合、グループごとに読む本を選んでもらいます（例えば多読用図書から）。多様な解釈が可能な本が望ましいでしょう。英語力にばらつきがある場合は、学生の英語力でグループを分けてもよいでしょう。多読授業で導入する場合は、読んでいる本のレベル（例えば、読みやすさレベルなど）でグループ分けするのも一案です。
2. 教員が本を選ぶ場合、何か共通テーマを設定するのもよいでしょう。

[例1]「多読用図書でシェイクスピアを読んでみよう」

シェイクスピア劇を題材とした多読用図書をグループの数だけ用意し、各グループに振り分けます。複本があればグループ内の全員に1冊ずつ配れますが、1冊しかない場合は、回し読みするよう指示します（この場合、準備期間を長めに取ったほうがいいです）。グループごとに読む本は違いますが、全体に統一テーマがあるので、ディスカッション後にクラス全体での振り返りがしやすいでしょう。

[例2]「ポストモダン絵本を読んでみよう」

絵本の場合、読むのに時間がかからないので、Shared Reading 活動の前にクラス全員に複数の絵本を読ませておくことが可能です。例えば30人クラスなら、5人のグループが6つできますので、絵本を6種類用意してそれをクラスで回し読みします。

その後、最も気に入った絵本を選んでもらってグループを作成します。ディスカッション後にグループ単位でプレゼンテーションをしてもらうのもよいでしょう。すると、個別の絵本に対する理解だけでなく、ポストモダン絵本というジャンルに対する理解が深まります。この活動については、本 HP の絵本のパート (*The Doubtful Guest, Into the Forest, It Might Be an Apple, I Want My Hat Back, The Lost Thing* のページ) に詳細がありますので、ぜひご参照ください。

【その他備考】

先行研究として以下をご参照ください。

Fukaya, M. (2010). Extensive Reading of Language Learner Literature as a Step to the Pleasure Reading of Unabridged Literature. *Proceedings and Papers 2010* (Liberlit Conference). Retrieved from <http://www.liberlit.com/new/?p=155>

深谷素子 (2011). 「読書指導の場としての多読授業: "Reading for pleasure" というマジック・ワードを再考する」『慶應義塾外国語教育研究』(慶應義塾大学外国語教育研究センター) 第 8 号、pp. 69-90. Retrieved from http://www.flang.keio.ac.jp/webfile/kiyo/kiyo_eighth.pdf

Kusanagi, Y., Kobayashi M., & Fukaya, M. (August, 2019). Good Ingredients to Inspire Readers: Introduction to Useful Picture Books in Extensive Reading. Paper presented at 5th World Congress on Extensive Reading. (Feng Chia University, Taichung, Taiwan).

Cf. Shared Reading で用いたワークシート例

Shared Reading		
Book Title	YL	Words
Name	Group members' names	

<Before the discussion>		
➤ Questions you want to ask your group members (+ your own answers)		
①		
②		
➤ Favorite quote (+ the reason why you chose it)		
➤ Background information you found		
➤ Your evaluation of the book before the discussion		
<After the discussion>		
➤ Your evaluation of the book after the discussion		

(文責：深谷素子)